



渡邊 陽一郎 社長

株式会社 朝日ラバー(5162)



企業情報

市場	JASDAQ
業種	ゴム製品(製造業)
代表取締役社長	渡邊 陽一郎
所在地	埼玉県さいたま市大宮区土手町 2-7-2
決算月	3 月
HP	http://www.asahi-rubber.co.jp/

株式情報

株価	発行済株式数(自己株式を控除)		時価総額	ROE(実)	売買単位
809 円	4,546,444 株		3,678 百万円	8.0%	100 株
DPS(予)	配当利回り (予)	EPS(予)	PER(予)	BPS(実)	PBR(実)
30.00 円	3.71%	49.98 円	16.2 倍	987.28 円	0.82 倍

*株価 2/13 終値。発行済株式数は直近四半期末の発行済株式数から自己株式を控除。ROE、BPS は前期実績。

*DPS(予)は、記念配当 10 円を含む。

業績推移

決算期	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半期 純利益	EPS	配当
2016 年 3 月(実)	5,976	237	235	131	29.16	13.00
2017 年 3 月(実)	6,511	475	490	341	76.09	16.00
2018 年 3 月(実)	7,534	561	589	459	101.98	20.00
2019 年 3 月(実)	7,706	483	508	352	77.97	20.00
2020 年 3 月(予)	7,485	351	356	227	49.98	30.00

* 予想は会社予想。

* 2020 年 3 月期(予想)の配当金の内訳は、普通配当 20 円、記念配当 10 円。

* 単位: 百万円、円

目次

今回のポイント

1. 会社概要

2. 中期経営計画

3. 2020 年 3 月期第 3 四半期

4. 2020 年 3 月期業績予想

5. 今後の注目点

<参考:コーポレートガバナンスについて>

今回のポイント

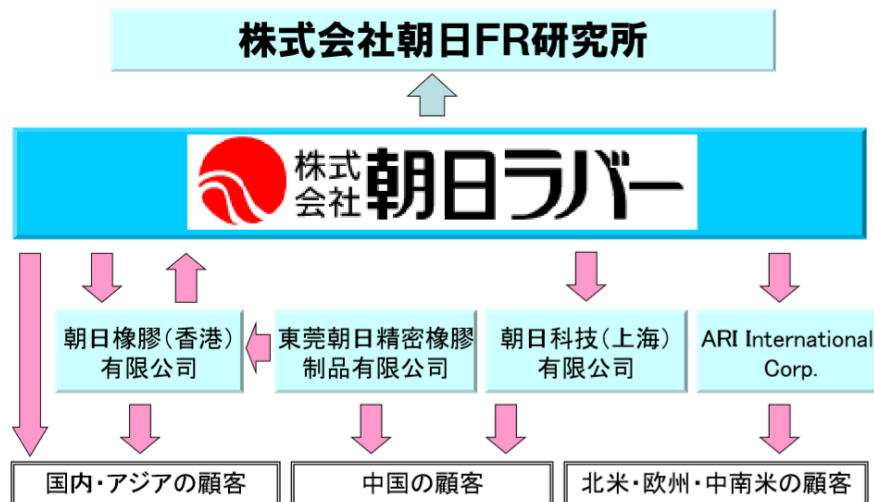
- 20/3 期第 3 四半期は前年同期比 7.3%の減収、同 46.1%の経常減益。売上高は、自動車スイッチの防水カバー等や認証・認識ビジネスに対応する RFID タグ用ゴム製品の受注などが減少した工業用ゴム事業で減少したことに加え、旧機種から新機種に移行した採血用・薬液混注用ゴム栓の受注は堅調に推移したものの、医療・衛生用ゴム事業においても若干減少した。セグメント利益は、売上高の減少を受け工業用ゴム事業で減少したものの、プロダクトミックスの改善により医療・衛生用ゴム事業は増加した。
- 20/3 期の会社計画は、11 月 13 日に下方修正を行った前期比 2.9%の減収、同 30.0%の経常減益から変更なし。売上高は、自動車スイッチ用防水カバーや RFID タグ用ゴム製品の受注回復が当初予測よりも遅れる見込みとなったことなどにより工業用ゴム事業で減少する他、医療・衛生用ゴム事業でも若干減少する計画。利益は、売上高の減少に加え、設備投資、人員補強等によるコスト増加などを考慮している。1 株当たり配当は、19/3 期から 10 円増配の 30 円の予想(上期末 10 円、期末 20 円)を据え置き。期末配当に記念配当 10 円が含まれている。
- 同社は第 12 次中期経営計画に即して、各重点事業分野への新たな展開を着実に前進させている。具体的には、自動車インテリア照明市場に加え、透明シリコンレンズの ASA COLOR LENS を用いて自動車エクステリア照明市場へ新規参入した。また、前期に「新市場創造型標準化制度」を活用し、「照明器具用白色シリコンインキ塗膜」として JIS 化を実現した白色シリコンインキの製品ラインアップを拡大した他、WEB サイト販売を開始した。更に、切り紙構造とゴムの複合により低応力で伸長し、耐久性に優れた新しい伸縮配線を開発した。今期に実施した将来へ向けた積極的な施策がいつ頃から同社の業績へ本格的に寄与し始めるのか注目される。

1. 会社概要

小型電球や LED に被せる事で様々な発色を可能にする被覆用ゴム製品を主力とする。自動車の内装用照明を中心に、携帯用通信機器、電子・電気機器、産業機器、スポーツ用等、幅広い分野で利用されている。シリコン(ゴム状の合成樹脂)材料の配合技術と調色技術に強みを有し(色と光のコントロール技術)、シリコンゴムに蛍光体を配合した LED 用ゴムキャップは、LED の光を波長変換して色調や輝度を調節できるため、10,000 色以上の光を出す事や LED の課題である光のばらつきを均一化する事が可能。また、医療・衛生用ゴム製品や硬質ゴムと軟質ゴムの複合製品等も配合技術を活かしてそれぞれの用途にあったゴム質を実現している。

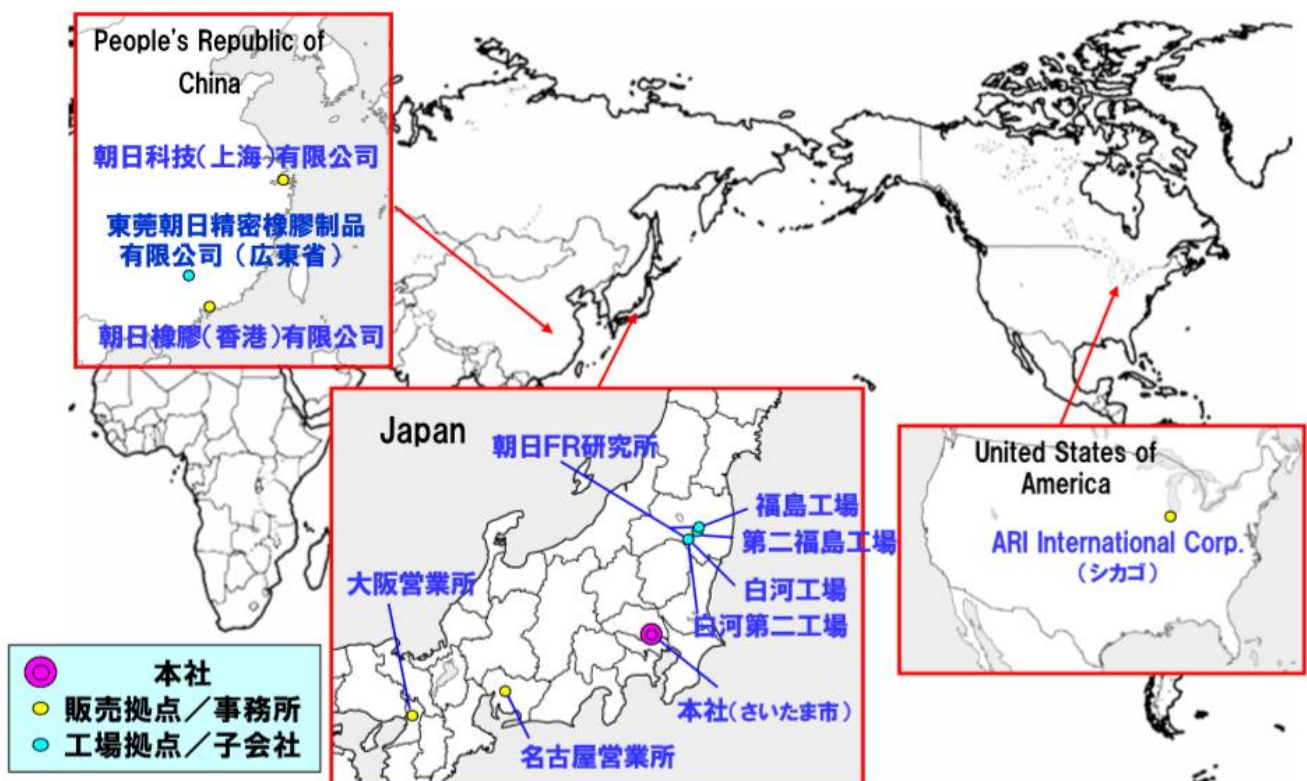
グループは、同社の他、ゴム・プラスチック等の研究開発を行う(株)朝日 FR 研究所、米国の販売会社 ARI INTERNATIONAL CORP.、及び工業用ゴム製品の販売を手掛ける朝日橡膠(香港)有限公司、10 年 7 月に設立した工業用ゴム製品の製造・販売を手掛ける東莞朝日精密橡膠制品有限公司、及び 12 年 1 月に設立した工業用ゴム製品の開発・設計・販売を手掛ける朝日科技(上海)有限公司の連結子会社 5 社からなる。

事業系統図



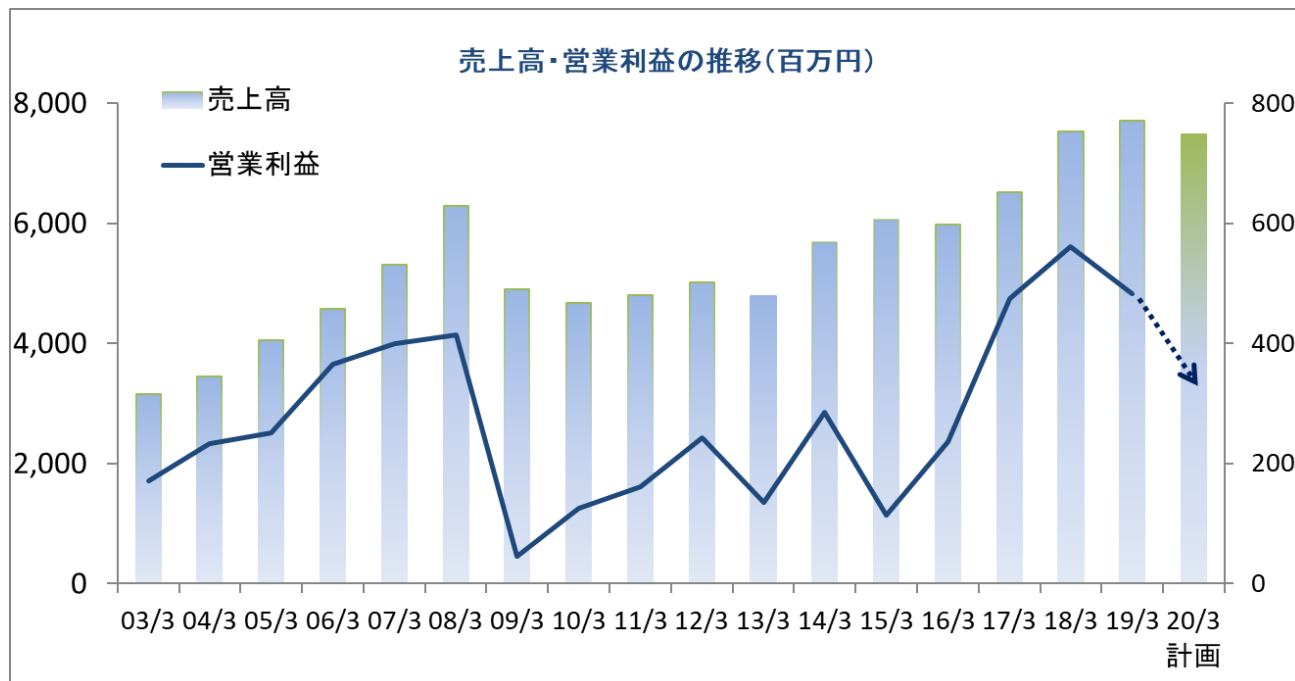
(同社決算説明会資料より)

海外拠点



(同社決算説明会資料より)

連結業績の推移



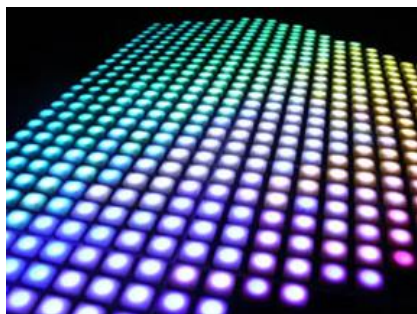
【事業内容と主要製品】

事業は、自動車のスピードメーターや内装照明の光源向けの「ASA COLOR LED」や各種センサ向けのレンズ製品「ASA COLOR LENS」、或いは弱電製品に使われる応用製品、更にはスポーツ用ゴム製品(反発弾性、高摩擦抵抗等を追及した高品質の卓球ラケット用ラバー)等の工業用ゴム事業、点滴輸液バッグ用ゴム栓や真空採血管用ゴム栓、プレフィルドシリンジ(薬液充填済み注射器)向けガスケット等、使い捨てのディスポーザブル用ゴム製品の医療・衛生用ゴム事業に分かれ、20/3 期第 2 四半期累計期間の売上構成比は、それぞれ 83.8%、16.2%。今後は、RFID タグ用ゴム製品、ASA COLOR LENS、医療回路製品用ゴム部品などの販売拡大が期待される。

・ASA COLOR LED

ASA COLOR LED とは、LEDの光と色のばらつきを解消する商品。青色 LED に蛍光体を配合したシリコン製キャップを被せることで、自動車内装照明用に 10,000 色以上の均質な光を提供。顧客に要求される均一な色を実現している。

ASA COLOR LED のイメージ

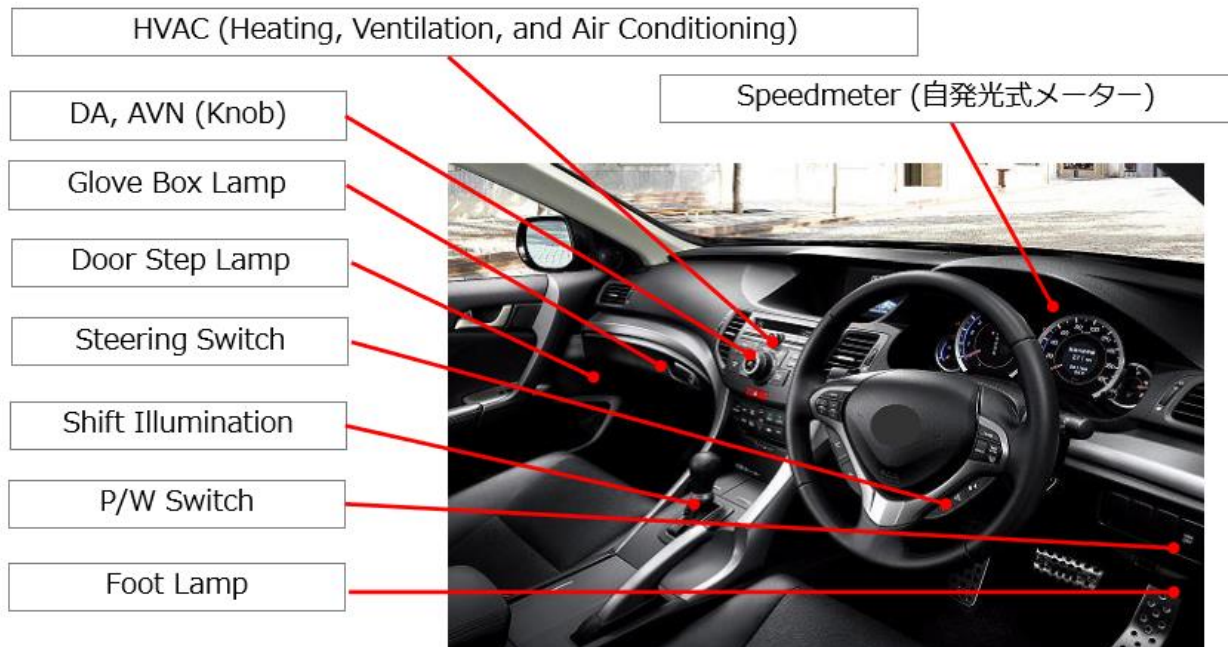


(同社決算説明会資料より)

ASA COLOR LED の採用例

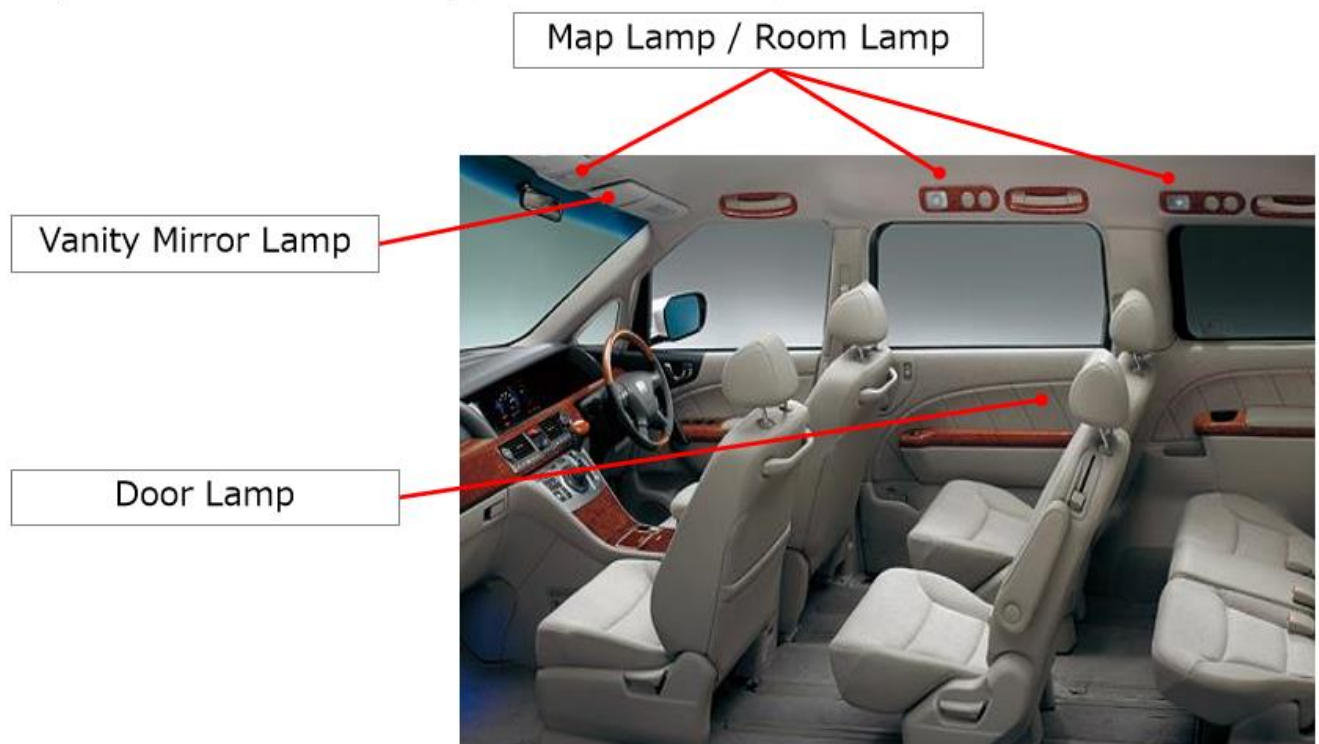
自動車内装照明に応用して、安心、安全、快適性を高める。

車載インテリア照明（インストルメントパネル）



(同社会社説明会資料より)

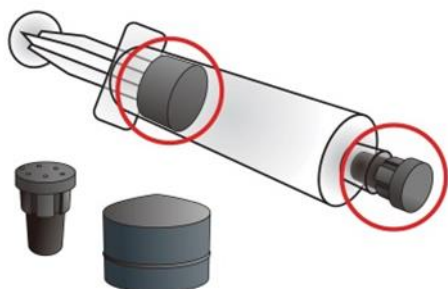
車載インテリア照明（ルーフモジュール）



(同社会社説明会資料より)

点滴輸液バッグ用ゴム栓、真空採血管ゴム栓、薬液混注ゴム栓、プレフィルドシリンジ(薬液充填済み注射器)向けガスケットなど、医療現場で用いられるディスポーザブル商品に使用さる。安全性の高い材料を開発し、独自のコーティング技術で“漏れない”と“滑る”を両立し、注射速度の微妙な調節が可能。素材変性技術による安全性の高い材料と表面改質技術による摺動性の向上により、医療ミス防止などの安全性向上に貢献している。

プレフィルドシリンジ向けガスケットのイメージ

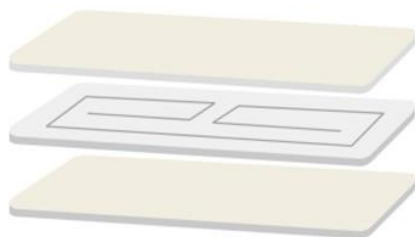


(同社決算説明会資料より)

・RFIDタグ用ゴム製品

RFIDタグ用ゴム製品は、溶剤を使わずに接着させる“分子接着・接合技術”を応用し、ICチップやアンテナ部をゴム素材で覆い、折り曲げに強く、耐水性、耐熱性に優れた、柔らかい小型のRFIDを提供。取り付ける対象がどのようなものかを記憶し、認識させる機能で、今後成長が期待される認証・認識ビジネスに対応。ゴムという弾性体の特徴を生かして、RFIDが使用できなかった用途への利用が可能に。さらに応用し市場拡大を進める。

RFID タグ用ゴム製品イメージ

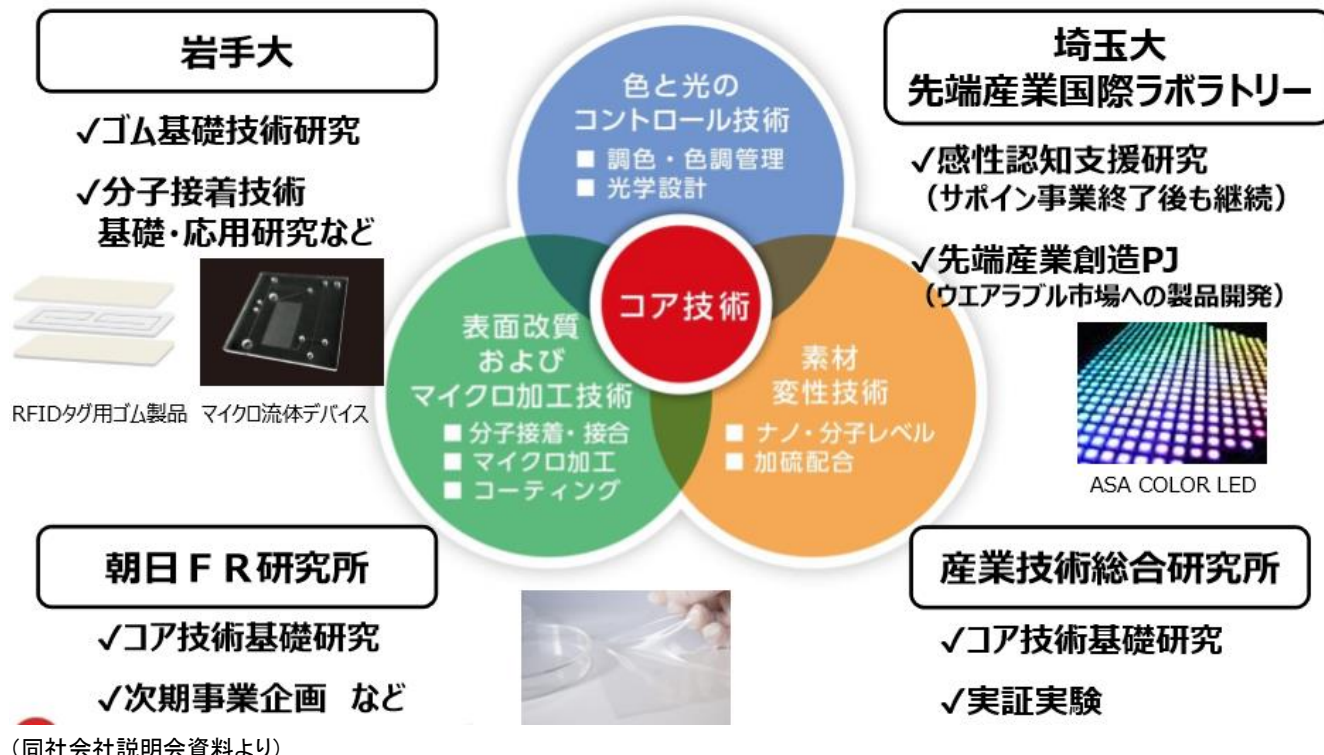


(同社決算説明会資料より)

【コア技術と事業領域】

オープンイノベーションで事業領域深耕につながる研究を加速するとともに、製品化に向けた実証研究を強化す

る。



・色と光のコントロール技術

シリコーンゴムに着色剤や蛍光体を配合し、様々な色と光を出すことのできる色調管理技術を有し、ばらつきを調整し、顧客が望む細かい色調を実現。また、透明なシリコーン樹脂を材料とし、耐熱性、対紫外線性に優れ、集光・拡散といったレンズ機能を実現。ASA COLOR LEDなどにこの技術が生かされている。今後もこれら技術を活用し、自動車内装、照明分野とコア技術を応用したスイッチ分野の拡大を図る方針。

・表面改質及びマイクロ加工技術

接着剤を使わずに、ゴムとゴムや金属、樹脂を接着させる分子接着・接合技術を有する。接着させる表面を改質処理し、化学反応で結合。これにより、有害な溶剤の廃棄処理が不要となり、耐熱性、耐水性もクリア。耐水性、耐候性に優れており、RFIDタグ用ゴム製品やマイクロ流体デバイスでこの技術が生かされている。また、数十ミクロンから数ミクロン単位の表面加工を行うマイクロ加工技術を確立。医療用ゴム製品である薬液混注ゴム栓の薬液注入口の形成と薬液漏れの防止や、充電して使用できる二次電池の内圧管理にもこのマイクロ加工技術が生かされている。今後もこれら技術を活用し、高性能製品や新たな分野を開拓する方針。

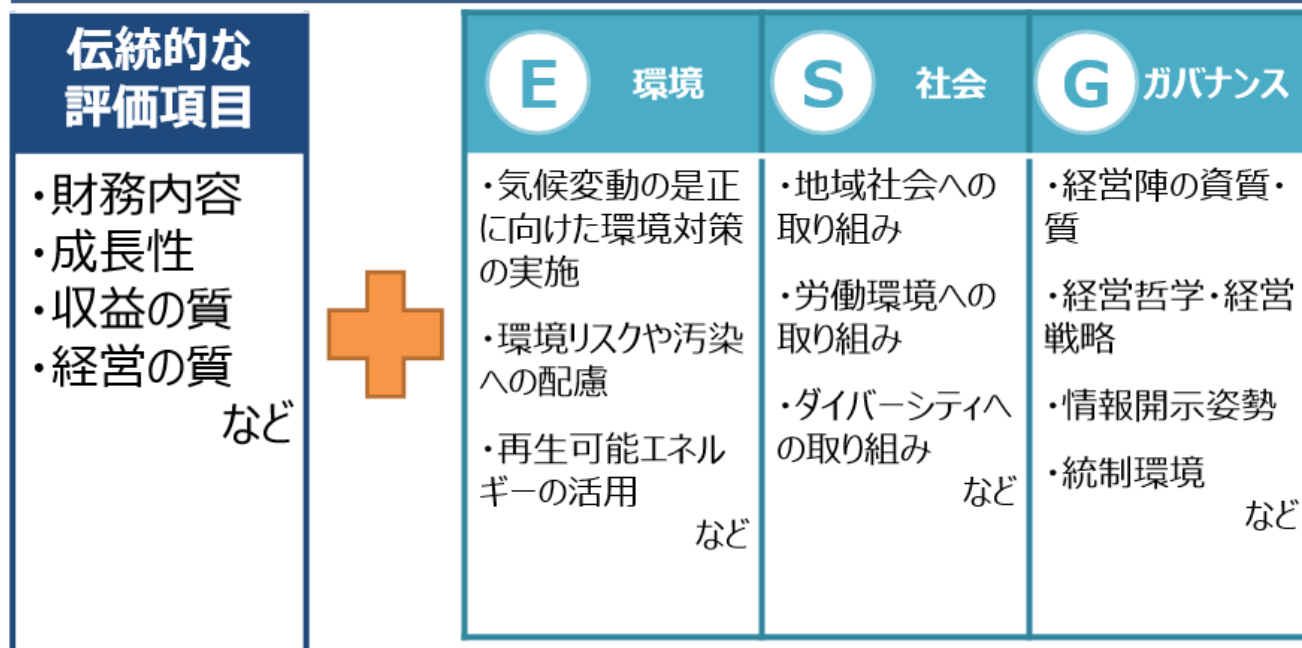
・素材変性技術

ゴムをはじめとするソフトマテリアルは、素材に添加物を配合することで求める機能を持たせることができる。更に、ナノ・分子レベルで成形することによりその機能をパワーアップすることも可能。卓球ラケット用ラバーなどにこの技術が生かされている。今後もこれら技術を活用し、医療分野を支える製品を提供する方針。

【ESG への取り組み】

同社は、ESG へも積極的に取り組んでいる。

企業の持続的成長



(同社会社説明会資料より)

項目	方針と実績
E(エコロジー)環境	環境に対する取り組みが、持続可能性のある社会の実現に寄与すること、また、事業の競争力の向上と持続的な成長を支える視点の一つととらえ、社会の要請の応えられるよう取り組みを行う。 ●工場電力の削減 白河工場と福島工場に太陽光発電パネルを設置。また、白河工場と福島工場の照明をLED 蛍光灯に置き換え、省電力化を実現。 ●廃棄物のリサイクル推進 ゴム屑やポリシート、フィルムなどのプラスチック類に加え、硬質を含む混合プラスチックの焼却灰をセメント原料として使用する活動を推進。
S(ソーシャル)社会	地域社会の一員としての会社であることから、地域への貢献活動も継続して行い、地域の皆様とのコミュニケーションを深めることで、従業員の責任感とモチベーションの向上に役立てる。 ●最寄駅の清掃 福島工場、第二福島工場の最寄駅である JR 東北本線泉崎駅で、毎週火曜日の就業時間前に 4～5 名の当番制で清掃活動を実施。活動を開始して 2019 年で 24 年目となる。 ●卓球大会の開催 福島県の県南地区の中学生を対象にした朝日ラバー杯の卓球大会と、高校生や社会人も含めた卓球大会を主催。 ●ケアハウスの清掃 新入社員研修の一環として、地域のケアハウスの清掃を実施。 ●地域イベントへの参加 福島県白河市のイベント「まるごと白河」の企業ブースに出展し、地元にある企業の活動の認知を広め、従業員が直接地域の皆様とふれあう機会を創出。

G(ガバナンス)統制	2015 年 6 月に、監査等委員会設置会社に移行。社外取締役を招聘し、社内にはない多様な意見を取締役会に反映し、内部統制のしくみとマネジメントの監査・監督のしくみの両輪で、適切なリスクマネジメントを推進。トップダウンによる経営理念・経営方針の伝達と、ボトムアップによる現場の知恵の具現化により事業を成長させる。
------------	--

2. 中期経営計画

同社は、中期経営計画を策定するにあたり、中期三カ年を二回分の6年後、2020 年を見据え、ビジョン(目指す姿)を「AR-2020 VISION」として定めている。後半の 2017 年 4 月から 2020 年 3 月までの二期目の三カ年計画を「V-2 計画」とし、存在する市場に対して“魅力ある提案”をするために、素材力とサービスを磨き鍛え、多くの安心した製品を安定的に届けるためコア技術を磨いて育てていく方針。

V-2 計画(第12次三カ年中期経営計画)

同社は、2018年3月期を初年度とする三カ年の「V-2 計画(第12次三カ年中期経営計画)」(2017年4月～2020年3月)を策定した。中期経営方針として「AR-2020VISIONに通ずる質的成長を求めて広く社会に貢献する」を掲げ、中期経営戦略として、①ゴム技術・コア技術・製品力を成長させる、②経営基盤を磨き成長を加速すると定め、最終年度である20/3期に数値目標である、連結売上高70～80億円、連結営業利益率8%以上を目指す。先行きの不確定要因を考慮し、売上高目標は範囲を持って設定、質的成長を目指すため利益指標は率の成長を着実に目指す方針。また、最終年度目標は環境の変化などを考慮し、随時見直しをかける方針。

(1)事業分野の再編

従来、自動車、医療、ライフサイエンス、その他の4事業分野であったものを、車載・照明、医療・ライフサイエンス、その他の3事業分野へ変更する。これは、①照明全般に視点を広げて市場を見出し、新たな付加価値で市場創造を図る、②医療事業とライフサイエンス事業を融合することで、医療機器分野・診断医療分野などに対する経験を生かして、事業に対する総合力を強化する、③ゴム技術を生かした機構部品を創造することを目指すものである。

(2)事業分野の戦略

車載・照明(主要製品:ASA COLOR LED、透明部材、反射材料)

17/3 期の連結売上高実績 27.4 億円に対し、20/3 期の売上高は 30～35 億円を計画。当社のコア技術のひとつである色と光のコントロール技術を駆使した ASA COLOR LED など、他社に真似のできない独自製品で市場と顧客の要望に応えることに加え、培った技術を照明全般に視点を広げて市場を見出していく。

医療、ライフサイエンス(主要製品:採血用・薬液混注用ゴム栓、プレフィルドシリンジ用ガスケット、マイクロ流体デバイス)

17/3期の連結売上高実績12億円に対し、20/3期の売上高は13～15億円を計画。医療現場での衛生管理や医療事故の防止などに役立つディスポーザブルのゴム製品と診断医療や解析分野に貢献するマイクロ流体デバイスの開発を進める。

その他(主要製品:RFID タグ用ゴム製品、自動車向けスイッチ用ラバー、卓球ラケット用ラバー)

17/3期の連結売上高実績25.7億円に対し、20/3期の売上高は27～30億円を計画。ゴムの可能性を追求し、独自のコア技術と複合化させたこれまでにない付加価値を持つ機構製品を提供する。

その他、経営基盤を磨き成長を加速するために、拠点地域をつなぐ製品企画と連結販売を行う体制を構築する他、健康経営を軸に経営基盤を整備する。

なお、中期経営計画(V-2計画)最終年度である20/3期は、売上高目標は達成の見込みであるが、営業利益率は未達となる見通し。

3. 2020 年 3 月期第 3 四半期決算

(1)連結業績

	19/3 期 第 3 四半期	構成比	20/3 期 第 3 四半期	構成比	前年同期比
売上高	6,028	100.0%	5,588	100.0%	-7.3%
売上総利益	1,537	25.5%	1,301	23.3%	-15.4%
販管費	1,065	17.7%	1,058	18.9%	-0.6%
営業利益	471	7.8%	242	4.3%	-48.6%
経常利益	487	8.1%	262	4.7%	-46.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	322	5.3%	163	2.9%	-49.2%

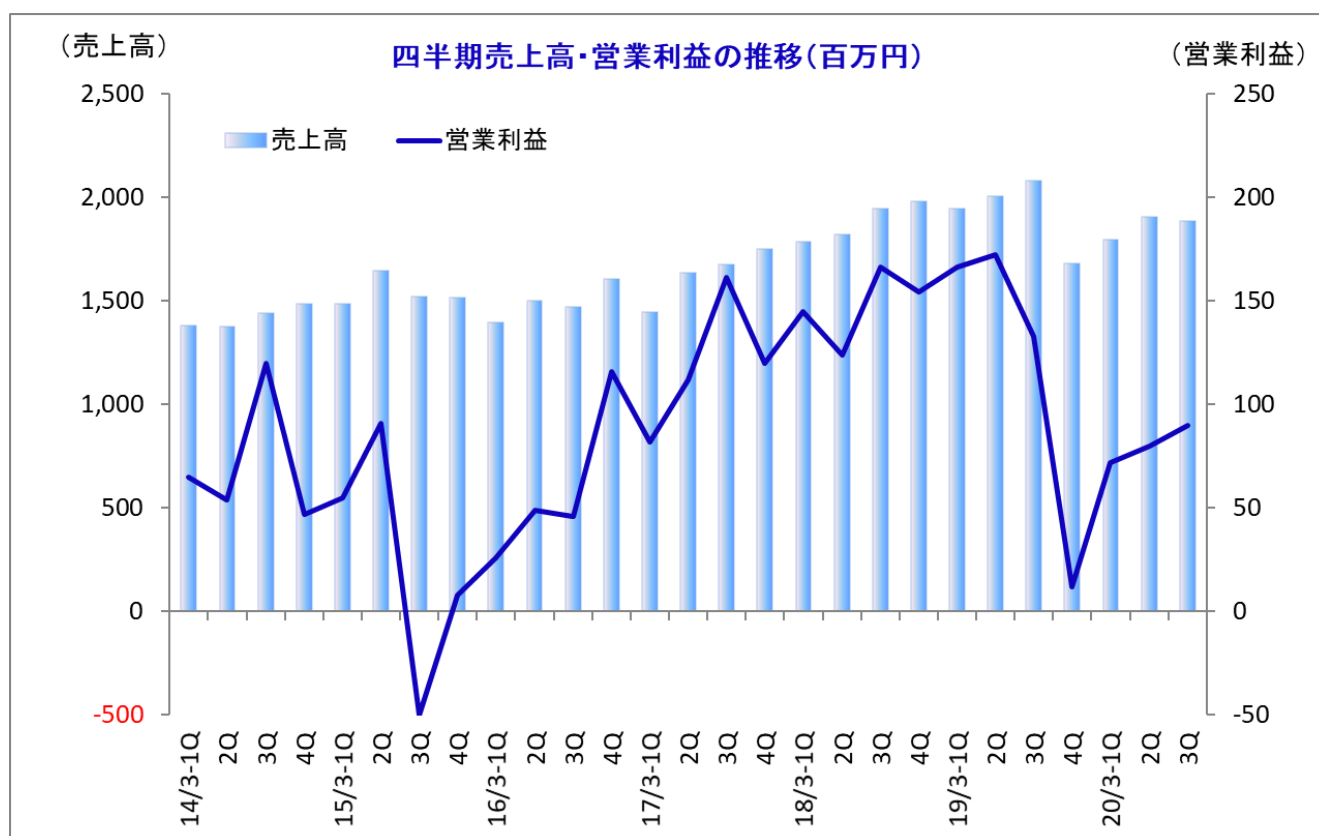
* 単位: 百万円

前年同期比 7.3%の減収、同 46.1%の経常減益

売上高は、前年同期比 7.3%減の 55 億 88 百万円。売上面では、工業用ゴム事業の売上高が同 8.3%減少。主力製品の自動車内装照明用の受注は増加したものの、自動車用精密ゴム製品でスイッチの防水カバー等の受注が減少した。また、認証・認識ビジネスに対応する RFID タグ用ゴム製品の受注は顧客の販売状況及び新旧製品の入替に伴う現行品の在庫調整等の影響が続いて減少した。また、医療・衛生用ゴム事業の売上高も同 1.6%の減少となった。旧機種から新機種に移行した採血用・薬液混注用ゴム栓の受注が好調だったことに加え、新規案件のゴム栓は堅調に推移した。

営業利益は、前年同期比 48.6%減の 2 億 42 百万円。売上高が減少した工業用ゴム事業のセグメント利益は同 42.3%の減益となった一方で、プロダクトミックスが改善した医療・衛生用ゴム事業のセグメント利益は同 10.1%の増益となった。売上高営業利益率は、4.3%と前年同期比 3.5 ポイントの低下。収益性の高い RFID タグ用ゴム製品の売上高の減少等が影響し、売上総利益率は、23.3%と同 2.2 ポイント低下した。合理化により販管費の実額は減少したものの、売上高の減少により売上高対販管費率も同 1.2 ポイント上昇。また、前年同期に発生した為替差損がなくなったことなどにより経常利益の減益率は営業利益の減益率より改善した。その他、特別損失で投資評価証券評価損 20 百万円を計上した影響などにより親会社株主に帰属する四半期純利益は、同 49.2%の減益となった。

四半期業績の推移



20/3 期第 3 四半期(10-12 月)は、顧客企業の在庫調整や先行投資負担の増加の影響を受け、売上高、営業利益ともに前年同期を下回る結果となったものの、前四半期(7-9 月)比で増益となった。

※15/3Qと4Qは、取締役2名逝去による役員退職慰労引当金繰入額等の特殊要因が影響。

(2)セグメント別動向

セグメント別売上高・利益

	19/3 期 第 3 四半期	構成比	20/3 期 第 3 四半期	構成比	前年同期比
工業用ゴム事業	5,100	84.6%	4,675	83.7%	-8.3%
医療・衛生用ゴム事業	927	15.4%	913	16.3%	-1.6%
連結売上高	6,028	100.0%	5,588	100.0%	-7.3%
工業用ゴム事業	587	82.7%	338	71.4%	-42.3%
医療・衛生用ゴム事業	122	17.3%	135	28.6%	+10.1%
全社費用	-238	-	-231	-	-
連結営業利益	471	-	242	-	-48.6%

* 単位: 百万円

国内・海外別売上高

	19/3 期 第 3 四半期	構成比	20/3 期 第 3 四半期	構成比	前年同期比
国内	4,953	82.2%	4,444	79.5%	-10.3%
海外	1,074	17.8%	1,144	20.5%	+6.5%
アジア	948	15.7%	1,007	18.0%	+6.3%
北米	113	1.9%	121	2.2%	+7.0%
欧州	12	0.2%	14	0.3%	+20.1%
合計	6,028	100.0%	5,588	100.0%	-7.3%

* 単位: 百万円

国内売上高は前年同期比 10.3%減少、海外売上高はアジアの増加が寄与し同 6.5%増加した。

(3) 財政状態

	19 年 3 月	19 年 12 月		19 年 3 月	19 年 12 月
現預金	2,388	2,414	仕入債務	401	406
売上債権	1,793	1,652	短期有利子負債	1,089	1,074
たな卸資産	832	978	流動負債	3,126	2,850
流動資産	5,367	5,290	長期有利子負債	2,058	2,194
有形固定資産	3,946	3,980	固定負債	2,851	3,029
無形固定資産	101	93	純資産	4,471	4,546
投資その他	1,033	1,061	負債・純資産合計	10,449	10,426
固定資産・繰延資産	5,081	5,135	有利子負債合計	3,148	3,269

※ 単位: 百万円。有利子負債＝借入(リース含まず)

19 年 12 月末の総資産は 19 年 3 月末比 22 百万円減の 104 億 26 百万円。資産サイドでは売上債権の減少が、負債・純資産サイドでは、未払法人税等が主な減少要因。純資産は第 3 四半期連結累計期間の利益計上に伴う利益剰余金の増加により同 74 百万円増加した。19 年 12 月末の自己資本比率は、43.6%と前期末から 0.8 ポイント上昇した。

(4) 通期の会社予想に対する第 3 四半期累計期間の実績の進捗状況

	20/3 期 第 3 四半期	20/3 期 通期会社予想	進捗率
売上高	5,588	7,485	74.7%
売上総利益	1,301	1,779	73.1%
営業利益	242	351	69.2%
経常利益	262	356	73.7%
四半期(当期)純利益	163	227	72.1%

* 単位: 百万円

20/3 期第 3 四半期連結累計期間の業績は、通期の会社計画に対して概ね 75%弱の進捗率となっている。会社計画の達成に向け、第 4 四半期の更なる回復が期待される。

4. 2020 年 3 月期業績予想

(1) 連結業績

	19/3 期	構成比	20/3 期	構成比	前期比
売上高	7,706	100.0%	7,485	100.0%	-2.9%
売上総利益	1,907	24.8%	1,779	23.8%	-6.8%
販管費	1,423	18.5%	1,428	19.1%	+0.3%
営業利益	483	6.3%	351	4.7%	-27.5%
経常利益	508	6.6%	356	4.8%	-30.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	352	4.6%	227	3.0%	-35.6%

* 単位: 百万円

前期比 2.9%の減収、同 30.0%の経常減益予想

20/3 期の会社計画は、前期比 2.9%の減収の 74 億 85 百万円、同 30.0%の経常減益の 3 億 56 百万円。自動車用ゴム製品の受注は回復傾向にあるものの、自動車スイッチ用防水カバーや RFID タグ用ゴム製品の受注回復が当初予測よりも遅れる見込みとなったもの。

売上面は、工業用ゴム事業、医療・衛生用ゴム事業ともに減少する計画。ASA COLOR LED や医療用ゴム製品の回路製品の新製品の受注が増加するものの、RFID タグ用ゴム製品や自動車スイッチ用防水カバーの受注が減少する。

利益面は、売上減少による利益の減少に加え、前期から継続する将来に向けた投資による費用増が影響し各段階利益とも前期比減益の計画。売上総利益率は、前期比 1 ポイント低下の 23.8%、売上高対販管費率は、同 0.6 ポイント上昇の 19.1%の会社前提。この結果、営業利益は、前期比 27.5%減益の 3 億 51 百万円となる計画。売上高営業利益率は、前期比 1.6 ポイント低下の 4.7%の予想。

1株当たり配当は、19/3期から10円増配の30円の予想(上期末10円、期末20円)を据え置き。期末配当20円には、創立50周年の記念配当10円が含まれている。

(2)セグメント別業績予想

セグメント別売上高

	19/3 期	構成比	20/3 期 予想	構成比	前期比
工業用ゴム事業	6,498	84.3%	6,360	85.9%	-2.1%
医療・衛生用ゴム事業	1,207	15.7%	1,125	15.0%	-6.8%
連結売上高	7,706	100.0%	7,485	100.0%	-2.9%

* 単位: 百万円

セグメント別売上高(中期事業分野別)

	19/3 期	構成比	20/3 期 予想	構成比	前期比
車載・照明	3,154	40.9%	3,443	46.0%	+9.2%
医療・ライフサイエンス	1,227	15.9%	1,207	16.2%	-1.6%
その他	3,324	43.2%	2,835	37.9%	-14.7%
連結売上高	7,706	100.0%	7,485	100.0%	-2.9%

* 単位: 百万円

車載・照明セグメントでは、ASA COLOR LED の受注回復に加え、ASA COLOR LENS の自動車エクステリア市場参入が寄与する。医療・ライフサイエンスセグメントでは、回路製品の新製品の量産がスタートする。一方、その他セグメントでは、RFID タグ用ゴム製品や自動車スイッチ用防水カバーの受注が減少する計画となっている。

(3)主要製品の売上計画

	19/3 実績	20/3 計画 (変更後)	前提・方針
ASA COLOR LED	2,917	3,241	・前期後半のグローバルな市場環境の変化による顧客の在庫調整が終了。 ・今期第 1 四半期から受注が回復し、売上増加見通し。
医療用ゴム製品	1,179	1,180	・採血用・薬液混注用ゴム栓の旧機種は終息。新機種の量産は計画通りスタート。 ・回路製品の新規ゴム製品の量産がスタート。
卓球ラケット用ラバー	415	446	・堅調な需要に支えられ、主力製品を中心に受注増加。
RFID タグ用ゴム製品	898	632	・新機種の市場投入遅れと現機種の在庫調整により、当初計画(1,018 百万円)から大幅下方修正。 海外市場の競合対策を顧客と連携し実施。

* 単位: 百万円

(4)設備投資計画

設備投資計画

	18/3 実績	19/3 実績	20/3 上期実績	20/3 後会社計画
設備投資	680	948	368	675
減価償却費	417	497	270	560

今期の設備投資計画 6 億 75 百万円の事業分野別内訳は、車載・照明分野 1 億 82 百万円(上期 1 億 29 百万円)、医療・ライフサイエンス分野 1 億 46 百万円(上期 60 百万円)、その他分野 3 億 47 百万円(上期 1 億 79 百万円)。生産効率を図る改造投資と生産環境整備の投資を継続して実施する計画。

また、法人別では、同社 5 億円 65 百万円、東莞朝日精密橡膠製品 1 億円、朝日 FR 研究所 10 百万円(研究開発)等が大きなもの。

(5) 分野別成長戦略と活動実績

同社の、20/3 期の経営方針は、好奇心を高めて深化、進化、新化しよう。

経営戦略は、基礎力を鍛えて質を高めよう(深化)、より優れた価値に高めよう(進化)、新たな道へ挑戦しよう(新化)であり、分野別の成長戦略と活動実績は以下の通りである。

車載・照明分野

開発製品	特徴・用途
ASA COLOR LED	自動車内装照明向け光源として、青色LEDに蛍光体を配合したシリコン製ゴムキャップをかぶせることで 10,000 色以上の光を実現。 【深化】—基礎力を高めて質を向上 ●さらに色と光のばらつきを狭小化した調光製品の拡販。 ●新薄型パッケージ製品投入。 前期導入した設備が稼働し、新薄型パッケージ製品の拡売に寄与 【進化】—より優れた価値に高める ●IATF16949(自動車産業の国際的な品質マネジメント規格)の認証取得活動。 2020 年 2 月 東莞朝日精密橡膠製品有限公司予定 2020 年 12 年 白河工場取得を目指す 【新化】—新たな道への挑戦 ●光と色の新たな価値提案に向けて埼玉大学との共同研究。 「疲れにくい光」を軸に開発継続
白色シリコンインキ	照明器具の反射板に塗布することで光反射取り出し効率を高め、耐熱性、耐 UV 性に優れたシリコン製インキ。 【深化】—基礎力を高めて質を向上 ●バックライト市場の省エネ、長寿命化に貢献。 【進化】—より優れた価値に高める ●JIS 規格(JIS Z 8922 照明器具用白色シリコンインキ塗膜)取得を生かした差別化製品を開発。 製品ラインアップを拡充 ✓ 基板種類対応…硬質のリジッド基板、フレキシブル基板、リフレクター反射層、セラミックス基板 ✓ 鋼板、フィルムに塗布した製品を開発品として市場展開 ✓ WEB 販売ツールによるアプローチ開始
ASA COLOR LENS	耐熱性、耐 UV 性に優れた光透過率 94%の集光・拡散機能を持つシリコン製レンズ。 【深化】—基礎力を高めて質を向上 ●素材力、光学設計技術力を高め、機能性樹脂製品とのさらなる差別化を狙う。

	活動継続 【進化】—より優れた価値に高める ●自動車エクステリア市場への新規参入。 自動車エクステリア向けの透明シリコンレンズに採用され、白河工場で量産活動開始。市場反応を踏まえ、さらに製品力をアップ。
--	---

医療・ライフサイエンス分野

開発製品	特徴・用途
プレフィルドシリンジガスケット	あらかじめ薬剤が充填された注射器に使用されるガスケット。 【深化】—基礎力を高めて質を向上 ●グローバル規格に準拠した豊富な量産実績で受注拡大へ。 ➢ 規格値を大幅に下回る低溶出素材開発 ➢ 生産能力増強で受注拡大 増産準備開始 【進化】—より優れた価値に高める ●独自の表面改質技術で低摺動のコーティングを開発中。 活動継続
超薄膜シリコンシート	毒素の少ないメディカルシリコンを使用した超薄膜のシリコンシート。 【深化】—基礎力を高めて質を向上 ●他に類を見ない超薄膜成形技術を生かし、細胞培養や医療、分析機器用途へ標準品を展開。 ➢ 無溶剤で最薄 15 μmの成形を実現 ➢ 透明度が高く、顕微鏡による観察に最適 活動継続
採血用・薬液混注用ゴム製品	輸液システムで薬液を混注するゴム製品。 【深化】—基礎力を高めて質を向上 ●輸液回路、血液回路に対応するメディカル素材や加工素材を開発。 活動継続 【進化】—より優れた価値に高める ●採血用・薬液混注用ゴム製品の一部を白河第二工場に移管し、増産に向けた準備を開始。 次期立上げを目指して工場環境の整備を継続 【新化】—新たな道への挑戦 ●同社独自開発の医療回路製品を市場投入。 新規医療回路製品用ゴム部品の量産を開始

その他分野

ゴムの基礎技術を高めて機構部品を創造する。

開発製品	特徴・用途
卓球ラケット用ラバー	球を高速で弾く反発弾性、強烈なスピンをかける高摩擦抵抗などを追及した高性能、高品質の製品。 【進化】—より優れた価値に高める ●顧客と連携し、さらに機能を追求した新製品を開発。

	活動継続
RFID タグ用ゴム製品	情報の読み書きを保存する IC チップとアンテナ部をゴムで覆い、折り曲げに強く、耐水性、耐熱性に優れた柔らかい小型のタグ製品。 【進化】—より優れた価値に高める ●顧客と連携し、市場ニーズを満足する品質・機能を追求した次世代製品を市場投入。 活動継続
感圧ラバーセンサ	静電容量の変化により荷重を測定するセンサ。 【深化】—基礎力を高めて質を向上 ●IoT やロボットなどのインターフェースとして開発・提案。 活動継続 【新化】—新たな道への挑戦 ●即時評価を手助けする動作検証用の感圧ラバーセンサ用ドライブキットの販売開始。 ドライブキットの WEB 販売で顧客ニーズ収集
F-TEM (Flexible Thermos Electrical Module)	電流極性の切替により冷却・加熱が可能な電子部品「ペルチェデバイス」を応用し、従来にはないゴムならではの柔軟性のある熱伝導シートと組み合わせた製品。 【新化】—新たな道への挑戦 ●サンプル出荷によるエビデンス取得活動を通じて市場参入を目指す。 ドライブキットの WEB 販売で顧客ニーズ収集

(6) 最近のトピック

【切り紙構造とゴムの複合により低応力で伸長し、耐久性に優れた新しい伸縮配線を開発】

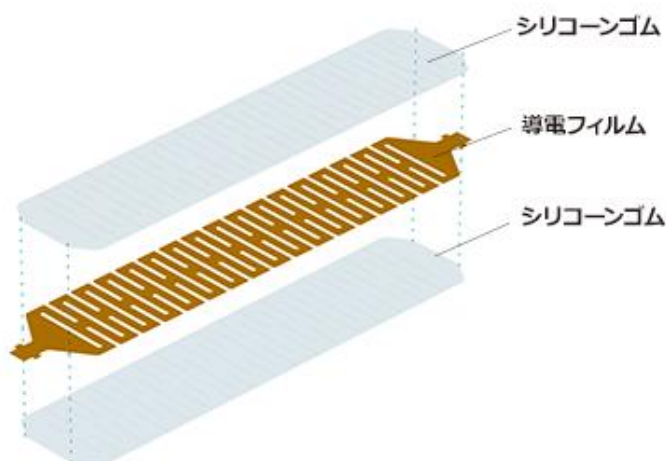
同社は、切り紙構造とゴムを複合することにより低応力で伸長し、耐久性と抵抗値特性に優れた新しい伸縮配線を開発した。ゴムの復元力と立体的な構造により、さまざまな配線として活用が可能となる。

日本の伝統工芸である「切り紙」に着想を得て、立体的に構造変化するよう加工された導電フィルムの周囲を独自のシリコーンゴムで封止することで低応力での伸長と高い絶縁性を可能にし、ゴムの復元力で収縮することで高い耐久性を兼ね備えた配線を実現した。

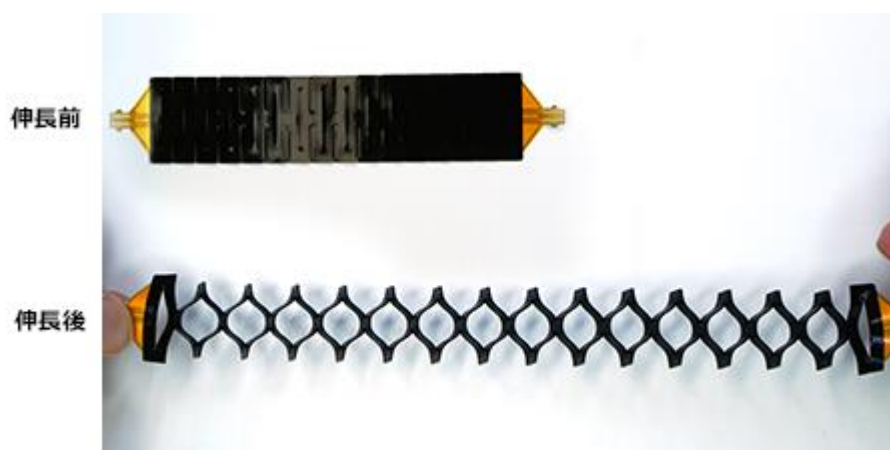
独自の複合化技術により、100%の伸縮試験でも 70 万回の伸縮でほとんど抵抗値が変わらず、電気特性の安定した接続が可能な他、市販の FPC (フレキシブルプリント配線板) コネクタに接続が可能。更に配線パターンを変更することにより伸長率や配線の長さ、チャンネル数をコントロールすることができる。

新しい伸縮配線は生体センシングの分野での活用が見込まれ、早稲田大学と北里大学との共同研究で発表された新しいウェアラブル筋電計測デバイスの一部にも用いられた。今後、様々なスポーツにおける計測に活用される他、ウェアラブルデバイスやロボット、介護などの配線として幅広い分野での活用が見込まれる。

<構造イメージ>



(同社HPより)



(同社HPより)

5. 今後の注目点

20/3 期第 3 四半期決算は、前年同期比で 7.3%減収、同 48.6%営業減益の厳しい内容となった。こうした厳しい事業環境ではあったものの、同社は第 12 次中期経営計画に即して、各重点事業分野への新たな展開を着実に前進させた。具体的には、自動車インテリア照明市場に加え、透明シリコンレンズの ASA COLOR LENS を用いて自動車エクステリア照明市場へ新規参入した。加えて、前期に「新市場創造型標準化制度」を活用し、「照明器具用白色シリコンインキ塗膜」として JIS 化を実現した白色シリコンインキの製品ラインアップを拡大した他、WEB サイト販売を開始した。更に、切り紙構造とゴムの複合により低応力で伸長し、耐久性に優れた新しい伸縮配線を開発した。今期に実施した将来へ向けた積極的な施策がいつ頃から同社の業績へ本格的に寄与し始めるのか注目される。また、第 3 四半期には目立った回復が確認できなかった RFID タグ用ゴム製品ではあるが、現在同社は顧客と連携し海外市場の競合対策を実施している。収益性の高い RFID タグ用ゴム製品の受注が魅力的な新製品の投入により回復傾向を強めてくるのか注目される。

その他、第 12 次中期経営計画は今期で終了となることから、今年中に次期中期経営計画が発表されるものと推測される。どのような中期計画となるのか今から楽しみである。どのようなビジョン、経営方針、数値目標となるのか期待を込めて注目していきたい。

<参考:コーポレートガバナンスについて>

◎組織形態、取締役、監査役の構成

組織形態	監査等委員会設置会社
------	------------

取締役	8 名、うち社外 2 名
-----	--------------

◎コーポレートガバナンス報告書

最終更新日:2018 年 6 月 29 日

「当社は、JASDAQ 上場企業としてコーポレートガバナンス・コードの基本原則をすべて実施しております。」と記載している。

＜コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づいて開示している主な原則＞

原則	開示内容
【株主以外のステークホルダーとの適切な協働】	年二回行っている社内での方針説明会、また毎月全社員を対象に行っている月例報告会で、健全な事業活動倫理を尊重する精神について、様々な角度と表現で伝えています。また、地域の経済同友会などに加盟し、他企業と交流を深めることで情報収集を行い、社内に展開しております。 特に重視しているのは社内のオープンなコミュニケーションです。いろいろな意見を出せる環境、聞く環境を整えていくことで、ステークホルダーを尊重する企業風土を醸成していけると考えております。
【株主との対話】	当社 WEB サイトで中期経営計画をわかりやすく公開しています。また、個人投資家向けのページでは、会社の目指す方向やトップメッセージなどを紹介しています。決算説明会は今期の重点施策について社長が直接説明し、当日の状況は WEB サイトにて動画配信しております。

本レポートは情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。また、本レポートに記載されている情報及び見解は当社が公表されたデータに基づいて作成したものです。本レポートに掲載された情報は、当社が信頼できると判断した情報源から入手したものです。その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。当該情報や見解の正確性、完全性もしくは妥当性についても保証するものではなく、また責任を負うものではありません。本レポートに関する一切の権利は(株)インベストメントブリッジにあり、本レポートの内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。

Copyright(C) 2019 Investment Bridge Co.Ltd. All Rights Reserved.